

**港区の施策・事業等について**  
**部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方**

資料 1

**○防災・防犯部会（令和元年度第1回：令和元年6月19日開催）**

番号	意見	区役所の対応・考え方
①	<p>昨年は大きな災害があり甚大な被害も受けたことから、今まで以上の防災意識を持つ必要があると痛感している。避難行動要支援者の安否確認等で地域の方にお世話になると思うが、顔の見える関係が必須となると思う。普段からどういった取組が必要なのかのご意見をいただきたい。各地域の防災訓練に障がい者の方が参加している地域もあると思うが、障がい者の方への対応やどう接したらいいのか難しいと感じておられているところがあれば、言っていただければ港区地域自立支援協議会の方で何ができるかを考えさせていただきます。障がい者だけでなく支援者と一緒に参加できるような体制をとっていくことができないかを考えている。そのあたりの現状を教えて欲しい。</p>	<p>避難行動要支援者対策については、地域の自主防災組織において要支援者の避難支援の取組が進むよう、要支援者情報の収集・管理方法や要支援者への個別支援内容、支援者の選出方法等に関する取組の支援を行っています。避難行動要支援者の安否確認については、区内に先進的に取り組んでいる地域があり、区としては、その手法をモデル化して各地域に示すなど、各地域と連携して取組を進めていきます。また、昨年度の災害から要支援者の自主避難についても対応、検討しているところです。</p> <p>要配慮者の支援については、その特性に応じた対応が必要なことから、障がい者のニーズを把握され専門的知見を有している港区地域自立支援協議会ともぜひ連携させていただきます。</p>
②	<p>災害時には、まず自分自身、家族の安否確認等を優先する。その後、自主防災組織の一員として対応することについてご理解いただきたい。</p>	<p>地域防災リーダー等、自主防災組織の一員も地域住民のひとりであり、自分自身と家族の安全確保が最優先です。また、災害への取組は、自主防災組織のメンバーだけではなく、地域全体の課題で、地域ぐるみで取り組むことが基本と考えます。</p>
③	<p>港区に外国人が増えてきている。外国人が、どんな生活に必要な情報を共有していて、災害時を含め自分たちがどうすればいいのかをわかっているのかと思うことがある。</p> <p>現在、港区には何人の外国人が居住しているのか。</p> <p>外国人が区役所に登録に来た時に、積極的に町会加入を勧めてはどうか。</p>	<p>災害時における外国人支援についてはインバウンドも増えており、全市的な問題と認識しております。外国人への情報提供については、大阪国際交流センターが防災を含め様々な情報提供を行っているが、そのこと自体が知られておらず、これをどう外国人に伝えればよいかについて、関係機関が連携し取り組んでいるところである。</p> <p>区における外国人住民への防災情報の提供については、防災マップおよび災害に対する基本的な知識について3カ国（英語、中国語、韓</p>

		<p>国・朝鮮語)に翻訳し、ホームページに掲載するとともに、防災マップ等を作成し、港区に転入してきた外国人籍住等に配布しています。避難所の表示等についても3カ国表示をおこなうとともにピクトグラムも取り入れています。また、災害時の同報無線についても多言語放送を検討しているところです。</p> <p>港区の町会加入率は24区中トップクラスであり、今後とも、外国人も含め、町会への加入促進を進めてまいります。</p> <p>なお、港区の外国人居住者は、平成31年3月末現在、3,053人(81,159人中)となっております。</p>
④	<p>我々の地域の自主防災組織では、定例会で手話講習会を開催したり、障がいのある人に来ていただいて昨年のおおしやっていた大阪北部地震や台風の時どうされていたか生の声を聞いて、私たちは何ができるかなどを話し合っている。障がいのある人にとっては、いろいろなことをわかってもらえるだけでもありがたいとおっしゃっていた。我々の避難所ではホワイトボードを置いて書いて対応できるようにしている。障がいにも色々な種類があるが、何をしてほしいのか、我々が何ができるのかを知りたい。</p> <p>自分の避難場所を決めている区民を増やす取組みは、まず避難訓練に出てくることだと思う。しかし、訓練には若い世代の人が参加していないので、参加してもらえ工夫が必要。</p>	<p>磯路地域の防災の取組みは日本でもトップレベルの先進的な取組みをされており、敬意を表します。</p> <p>そのような地域で取組んでいただいている一つひとつのメニューを地域の幅広い人にわかっている、「災害時に地域で助け合うことができると思う」区民を増やすためには、区の広報の工夫も必要と思っています。</p> <p>また、「自分の避難場所を決めている」区民を増やす取組みについては、町会ごとに避難する場所のマップを作成していただければ、そういった区民の割合は増えると思っています。</p> <p>今後とも、地域防災力の強化に向け、地域と連携して取組んでまいります。</p>
⑤	<p>災害時に地域で助け合うことについて、私の地域も高齢者が多く災害時にどうしたらいいのかと思っている。今年4月に、町会長と相談し、強制ではないが各家庭の名簿も書いてもらっている。災害になった時にその名簿をどうするかは今後町会長と相談していく予定。</p>	<p>地域コミュニティの活性化に向けては、つながりづくりの基盤となる住民に最も身近な町内会単位の活動が重要です。防災は町会加入の動機にもなり、個人情報も防災のためなら提供する人も多いと思われます。防災をキーワードにコミュニティの結束をつくっていくことは非常に大切な要素と考えます。</p>

⑥	<p>昨今増えている民泊で滞在している外国人は、2、3日で人が変わっていき、リアルタイムで把握できない。町会も多言語化できていないので対応は困難と思う。区からの働きかけで多言語化や世界基準のピクトグラムの利用などのなんらかの働きかけを今後お願いしたい。</p>	<p>現在、災害時のインバウンドの外国人への支援については、市において取組を進めているところです。民泊事業者に多言語化した啓発のチラシをおくことなどが必要と考えます。そのチラシについては、そもそも来日している外国人が津波のことなどを知っているかということがあり、そういうことをしっかり書いたものが必要と考えています。</p>
⑦	<p>最近、地域にワンルームマンションがたくさん建ってきており、コミュニティ形成をどうするかというのは非常に難しいと思う。ワンルームマンションの住民に、町会への加入や防災について、ディベロッパーへの区からの働きかけはされているのか。建設段階の入居説明会でそういったことがはいつていればいいと思う。</p>	<p>ワンルームマンションは、住んだ後に途中から町会に入ってもらうことは難しいため、できる時が大事だと考えます。ディベロッパーに対して説明資料の中に町会の加入申込書を入れるなどの働きかけは行っていますが、強制はできないという問題があります。各戸へ一軒一軒情報を届けるには、「広報みなど」がありますが、「全く読んでいない」「ほとんど読んでいない人」が23%いらっしゃるので、読んでいただけるように工夫していくことも必要と考えております。</p> <p>自治会・町内会単位の顔の見えるつながりづくりの支援に引き続き取り組んでまいります。</p>
⑧	<p>連合町会では防災訓練を行っているが、私の所属している単位町会では行っていない。単位町会でも防災訓練を行ってほしい。</p>	<p>地域の取組みは様々ですが、先進的な取組を行っている地域の手順をマニュアル化して事例紹介するなどし、広めていきたいと考えております。</p>

○福祉部会（令和元年度第1回：令和元年6月24日開催）

番号	意見	区役所の対応・考え方
①	<p>福祉部会関連の事業目標については、一部未達成のものもあるが全体的にみて良い成績を残せていると思う。</p> <p>今後、広報みなと等を通じて一般の区民の方に行事の案内やその効果等を発信することで、区民の協力も増えるのではないかと。</p>	<p>より多くの区民の皆さまに区行政についてのご理解、ご協力、またご意見をいただけるよう、今後も広報みなとをはじめ、SNS等も利用し、より効果的な広報に努めてまいります。</p>
②	<p>港区は在宅医療が充実してきたと思うが、施設での看取りが限られているので病院に転院させられているケースが多い。今後は病院のキャパシティ的に問題が出てくるのではないかと。</p> <p>『「在宅での緩和ケア、看取りは可能であると思う」と答えた区民の割合を55%以上にする』という目標は具体的にはどういうことなのか。</p>	<p>今後到来する超高齢社会では病床が不足することが予想されることから、医療を尽くし、入院の必要がなくなった方については、在宅に戻っていただき、通院・訪問診療や介護等を受けていただくことで医療破綻を防ぐとともに、多くの高齢者の「住み慣れた地域で自分らしい生活を続けたい」という思いに沿った形で、在宅での包括的な支援・サービスの提供体制を構築し、必要な医療や福祉サービスを受けることができる状況にあることを「めざす状態」として目標設定をしています。</p> <p>しかしながら、短い文章では伝わりにくい部分もあるので、わかりやすい表現に変更するなど工夫の必要があると考えます。</p>
③	<p>在宅介護の方はケアマネジャーへの質問や要求が多く対応できない場合もあるがその場合はどこに相談すれば良いのか。</p>	<p>プラン作成に関することであればケアマネジャーでご対応いただきたいが、総合的な相談であれば港区包括・南部包括またはランチにご連絡いただければと思います。</p>

④	<p>在宅医療・介護について、退院直後の在宅生活へのスムーズな移行、がん末期等の看取り期、病状不安定期における在宅生活の継続、家族に対するレスパイトケア、相談対応による負担軽減などを目的とする「看護小規模多機能型居宅介護」サービス事業所の設置の働きかけを行政としてされているか。</p>	<p>現在のところ、港区として「看護小規模多機能型居宅介護」サービス事業所設置の働きかけ等はしておりません。</p>
⑤	<p>がん検診の受診率はどのように計算しているのか。 区内や区外の医療機関で受診した分は反映されているのか。</p>	<p>がん検診の受診率は、区役所で受診された集団検診の受診者と、市内の委託医療機関で受診された受診者が反映されています。 市内他区で受診された場合も、受診者の居住区の受診率に反映されます。</p>

○こども青少年部会（令和元年度第1回：令和元年6月25日開催）

番号	意見	区役所の対応・考え方
①	<p>みなりん学習ドリルやインターネット上の無料動画の反応について、適宜、把握に努められたい。                      （「いきいき」の中でドリルを持参する子を見るとうれしい。）</p>	<p>いずれも学校からは概ね好評ですが家庭からの反応は把握しきれておりません。今後、把握に努めてまいります。</p>
②	<p>ある学校では数名増えれば1クラス増になるという窮屈な状況を強いられているクラスもある。クラス編成については区で判断できないのか。                      また、学校選択制に関して、市岡中では通学区域外からの希望者が65名となっているが、南市岡、波除から選択希望している生徒が多いと思う。選択の原因分析の資料によると部活動が挙がっているが、学校においてどのようにすれば選択されるかを議論された結果、今年から市岡東中に野球の同好会を立ち上げられたところである。</p>	<p>学校運営については教育委員会の所管事項になり、状況については本日の議論を教育委員会に伝えてまいります。                      市岡東中の同好会を含めて学校の魅力づくりに頑張っておられることは、区としても聞き及んでいます。                      区として何か対応できないかを考えており、具体的には学校案内や説明会で関与できないかを検討しています。</p>
③	<p>青少年指導員活動では指導ルーム・巡視活動を通じて非行防止に取り組んでおり、港区では青少年指導員の巡視は青少年指導員だけが取り組んでいる。他区では保護司や民生委員、主任児童委員と様々な方が関わっている。他の団体との連携を進めることは可能か。</p>	<p>青少年指導員の活動は、仕事もある中で夜間や休日に取り組まれており、大変ななか頑張ってください。                      区役所としても、様々な団体との連携を働きかけてまいります。</p>
④	<p>青少年指導員活動として、21時以降の中学生の人数をカウントしており、巡視活動には各団体から協力をいただき、情報をいただいている。                      横の繋がりを持つとしようとするが、他の団体からは協力できるところまで手が回らないという声を聞く。                      守秘義務の問題はあるが、こどもサポートネットで取り上げられる「学校の気づき」を青少年指導員でも共有したい。                      また、港区青少年指導員連絡協議会のホームページやフェイスブックでも活動の報告もしているので、ぜひリンクして欲しい。</p>	<p>こどもサポートネットの取組については、学校からの情報に基づいて、スクールソーシャルワーカーや推進員がご家庭と相談しながら、課題の解決に向けて関係先や地域での見守りにつなげていっておりますが、民生委員、児童委員などに主にお願いしているところです。                      地域の広がりや連携、守秘義務や情報について、引き続き関係局とも整理してまいります。                      また、区役所での青少年の健全育成の取組の際には、港区青少年指導員連絡協議会のホームページなどにもリンクさせていただきたいと考えています。</p>

⑤	<p>青少年指導員など青少年の健全育成や教育に関係する専門家が学校協議会に参加するよう、取組を進めて欲しい。</p> <p>多角的な視野からの意見によって議論が活発になると考えられ、また、学校協議会の場で完結しなくとも、キーパーソンが各団体に持ち帰ってそれぞれの活動に活かされるような協議会にして欲しい。</p>	<p>学校協議会の委員構成について、学校からは学識経験者を見つけづらいとの意見は聞いています。本日の部会の意見を学校に伝えてまいります。</p>
⑥	<p>中学校の学校選択制は部活動で選択していることが多いため、部活動の受け皿を作って欲しい。</p> <p>また、この学校は野球を、この学校はラグビーを、とそれぞれ特徴や頑張っていることが見えるイメージで、文化系のものも含めて特徴的な部活動が欲しい。</p>	<p>学級数が減ると教員が減って、クラブが減るという負のスパイラルに陥るとい現状があります。</p> <p>学校選択制に関しては、選択理由において「PTA 役員を受けたくなかったから」といった意見があり、こうした親のための理由は本来の学校選択制の趣旨ではなく、子ども達のためにあるべきものと考えています。</p> <p>そのため、新たに同好会を始められたことを PR するなど、地域や学校の取組に併せて学校選択制の趣旨をご理解いただけるよう積極的に発信してまいります。</p>
⑦	<p>池島小の減り方が大きく、三先小に区域外から 13 人が希望されており、場所から考えて多くは池島からと想像される。こうしたことを踏まえ、学校選択制のメリット・デメリットが地域ごとに違う形が出てきている。</p> <p>学校の魅力を共有すべきと思っている。</p> <p>三先にお住いの委員に、三先小の取組をお聞きしたい。</p> <p>(三先地域にお住いの委員より)</p> <p>地域団体を挙げて取り組むことが定着してきている。</p> <p>PTA による星を見る会や、子ども会を中心としたハロウィンなど、さまざまな取組をしている。以前から、他地域の友達を連れてきており、区別せず受け入れてきた。幼稚園や保育所での友達が行くからとの声も聞いたので、こうした催しの積み重ねかなと思う。</p>	<p>学校選択制については、いただいたご意見を始め、引き続き理由の把握、分析に努めるとともに、制度の趣旨に沿った選択がなされるよう、学校案内や説明会で正しく発信してまいります。</p> <p>なお、学校ごとの魅力ある取組については、教育行政連絡会での共有化や、学校案内への記載を通じて各学校へのフィードバックとともに保護者への PR を促してまいります。</p> <p>また、単学級の解消策については、引き続き、検討を進めてまいります。</p>

	<p>港区では、地域が入り組んでいて、住んでいるところから校区でない学校の方が近いところもある。また、港区には親の世代から住んでいる方が多い中で、父親が通っていた学校だったという帰属意識もあるようだ。今、やっている取組でよしとせず、他の学校の良い取組を真似てみるなど行ってもらいたい。</p>	
⑧	<p>将来、今の子ども達が食べていけるのかを考えたときに能力がなければ食べていけない時代になってきていると思う。</p> <p>ワークス探検団もあるが、夢をもってもらう、職業を体験する、将来のことを考えさせる施策はできないか。</p>	<p>区民の皆さまの物心両面の支援のおかげで、ものづくりの格好よさや魅力を伝える「キャリア教育プログラム」に取り組んでまいりました。</p> <p>築港小の児童から日常生活を良くするアイデアを集め、自分の遊ぶ個室としても使用できる耐震シェルター「押し入れに入る秘密基地」やバッティングの苦手な生徒による新たな球技の「ハンドバット」を作り、ガレージみなどで製品化し、今年、売り出していくところであり、先日、日経新聞にも取り上げられたところです。</p> <p>このようなアイデアを元に、子ども達にも起業のシミュレーションとして体験させていきたいと考えます。</p> <p>今までは顧客のニーズに応える企業が伸びてきましたが、これからは社会課題を解決できる企業が生き残っていくと考えているため、そういった企業との公民連携による協働事業により、小、中、高それぞれで取り組んでまいります。</p> <p>先日、波除小の児童を対象に追手門学院の先生に来ていただいてロボットプログラミングの体験講座をガレージみなどで実施しました。</p> <p>こうしたものが、港区の資産だと考えています。</p>
⑨	<p>家庭学習のためには周りに本がある環境が大事と聞いたことがあるが、港区に大型書店がない。誘致も難しいと思うので、図書館が新たになるのを控え使いやすい形になるのか、どのように進められて行くのか。</p>	<p>書店は文化を発信するところでありコミュニティの場でもあります。今ある書店を応援するとともに、また、可能な限り新たな誘致にも努めます。</p> <p>一方、図書館は教育委員会の所管であるので、さまざまな制約がありますが、できるだけ連携して調整してまいります。</p>

⑩	<p>家庭、学校に次ぐ第三の居場所としてサードプレイスがあるが、学校の中にリラックスできる場所として設けられているところがあると聞いている。例えば畳の部屋があるとリラックスできたりするかも知れない。こうした場所を学校に作っていくことはできないか。</p>	<p>港近隣センターではボランティアの方々に協力いただきながらエルカフェとして、また、市岡中では「はとばカルッチャ」をNPOが実施されています。畳の部屋をDIYで作っていくなどおもしろい取組になるかも知れません。いずれにしても、地域から支援していただける取組であることが前提であり、こうした支援をしていただけるサードプレイスが学校でも広がっていくことを期待しています。</p>
⑪	<p>企業誘致の関連で、区内における土地の使い方が上手くいっていないと思う。青少年指導員の取組としてある区では、区内にある企業や大学とが一緒になってケーキを作る取組などを行い、企業はメーカーの観点から子ども達の作るものや好みのリサーチ、大学は栄養学の観点から一緒にやっている。港区では大きな企業と一緒に何かをやろうといった取組がないように思う。こうしたことが、子どもの視野が狭まることになっていないか。</p>	<p>まちの土台は産業であり、文化と同じように大事であると考えております。産業として見ると港区など湾岸エリアは町工場が集積しています。ものづくりは高い技術力がある一方で新しいアイデアが出てこないことが悩みであり、ベンチャーなどはアイデアがある一方で形にしていくことができない。この2つを結び付けて新しいものづくりをしていこうというのが、ガレージみなどで、去年の4月にオープンし、日本財団の助成を受けた海底探査のプロジェクトや、野球のティーバッティングの新製品の作成などを行っています。また、長く休眠状態だった港産業会 青年部を立ち上げていただき、24区の中でも最も熱量のある青年部になっており、子ども達のためにキャリア教育プログラムに取り組んでいただいております。町工場からの「社会課題の解決に動いていく取組」が目に見える形になってくれば、海運、港運の大手企業のところでも、火がついていけばよいと考えております。</p>
⑫	<p>高校生の子どもから「高校生がデザインした服装で、高校生によるファッションショーをしたい」との声を聞き、非常にいいアイデアだった。港区でファッションショーができればいいなと思っている。また、不登校の生徒にこのショーの話をしたところ興味を示している。こうした取組は登校のきっかけづくりにもなるのではないか。</p>	<p>区としても地域の協力も得ながらサードプレイスなどに取り組んでいますが、児童生徒のアイデアに基づく取組が、不登校など課題のある同じ世代の子ども達の興味や関心を持ってもらうきっかけとして非常に有効な取組と考えます。</p>

⑬	人口を増やしていくためには、今の子ども達が、港区に住み続けたいと思っ てもらおうところから始まるので、その ためにも今の子どもの満足度を上げ るよう、取組を続けていって欲しい。	区のまちづくりビジョンにおいても「子ど もを育てる環境や子どもが学ぶ環境が整備 され、『子どもの学び』と『子育て世代』を 応援するまち」を目指している中で、子ど もの満足は何なのかを測りながら、取組を 進めてまいります。
---	---	---